

開催日：令和7年3月12日（水）
場 所：三重県立美術館 美術体験室

令和6年度第2回三重県立美術館協議会 開催結果

議案2（1）令和6年度事業報告について

・令和7年2月21日付けで、新しい博物館法の規定に基づく登録博物館に認定されました。

（入館者数について）

・企画展で集客の目標数と実際の観覧者数を比較すると、ほとんどの企画展でマイナスとなっています。様々な努力や工夫をしていますが、成果に結びつくことは難しい面があります。目標数と観覧者数の差を縮めるための工夫が必要と思います。

・企画展はどうしても強弱が生じるので、観覧者数を個々の企画展で比較せず、通年で評価する方法でもいいのではと思います。

・子どもが興味をもって見に来る企画展があるといいし、広報等を大学生に協力してもらったり、近隣の博物館との連携等が、観覧者増につながると思います。

・有料入館者数と無料入館者数の比率は、今年度の場合、平均するとだいたい6：4です。

（クラウドファンディングについて）

・クラウドファンディングにご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

この取組については、全国的に活動を展開する博物館と異なり、三重県とのかかわりを重視する本館では、県外への波及効果が薄く成果としては厳しいものでありました。

・クラウドファンディングを成功させるためにはかなりの労力を要すると聞いています。また、必要な修復が実施できなくなる恐れもあるのではないのでしょうか。

・国立の博物館でもクラウドファンディングが行われていましたが、館の方もあくまで非常的な措置と言われていました。外部資金を幅広く獲得していくべきですが、美術館の負担、それに伴うリターンについて幅広く議論していただければと思います。

議案2（2）令和7年度事業概要について

（企画展覧会について）

・7年度も若い世代よりも高年齢層の興味を引きそうな企画展が多い印象ですので、若い世代の興味を引いて、来館者増につながるような広報等の工夫に期待します。特に広報については学芸員過程の大学生に協力してもらうのはどうでしょうか。

・美術館から遠方の地域だと、美術館に来館することが難しく、特に子どもは難しくなります。しかし、図工の授業で鑑賞教育や鑑賞教材を出すことが、来館のきっかけになったりするので、美術館が作成したアートカードを工夫して活用していればよいと思います。

・ギャラリートーク、ワークショップだけでなく、自分でも何か作品をつくって持ち帰れるようなイベントの開催があるといいと思います。

・令和6年度は柳原義達展で、成果物を持ち帰ることのできるワークショップを実施し、参加者に好評でした。今後も引き続き検討していきます。

・子ども関係の集客については、若いアーティストにアイデアを出してもらおうと全く新しい提案があるかもしれないので、アーティストの活躍の場としてもそのような機会を検討してみてください。